

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

ふところに一村抱き山眠る

刈谷 志津

(評)さすがにベテランの句「眠る山」ではなく「山眠る」である。多くの山が長く連つていて、村がその中に存在している。「抱き」に一村の存在を描出し、その裏に作者の感情も載せ、山も村も眠りにつくという。春の山が笑ふように感ずるのに対し冬の山は眠るように見えるのである。

次々と書き込みありて古暦

大川 節弥

(評)年の暮も近づいて使い古した暦のことで、これ以後の暦は古暦となる。年の暮れまでは、まだ古暦にも用がある。四、五枚に残ったカレンダーも亦古暦である。古暦には一年中の行事や冠婚葬祭

等が細やかに書き込まれており、日記代りのものもあるうし、保存して家累代の蔵書となるかも知れない。疎かに扱えないのも古暦。

天辺に残りて淋し木守柿

森岡 照月

(評)木守柿は収穫が終った柿の木に残された柿のことで、柿の木に感謝する意味と、その柿の収穫が来年の柿の収穫へも繋がり、害虫・外敵など駆除してくれた澤山の鳥類にも感謝、お礼の意味を込めて取り残した柿のことで、成った柿の多少に係ることはないのである。

恙なく生きて米寿や歳暮るる

筒井 文

(評)生活の態度がしっかりとっているから、米寿を迎えても病気などせず、元気で新しい年を迎えられるのです。そのことは大変幸福な事です。「恙なく生きて」は自分自身現在の生き方に直情の視線を向けた言葉だと思つたのですが……。

冬ざれや傾くままの貸家札 岡本とも子

毛糸編む娘らの昔を膝掛けに 竹崎 光子

寒月が愉快寅彦ってどんな人 秋田 律子

吾が余生自問自答の夜長かな 川村 博子

取り消せぬ失言もあり凍てる月 友草 水月

おでん屋の歌声昭和の生きてをり 間 浩太

しつとりと馬頭観音初時雨 津田 久美

隣島黄タンポポの返り花 弘瀬うき子

露天湯に頤浸し冬の月 村上 郁子

孫ひ孫の誕生日に○初暦 間 信子

つるもどき一括りして活けにけり 片岡 包女

白菜の俵積み上げ無人市 伊藤 たみ

手枕の園児の笑顔冬うらら 筒井 一平

冬枯れの溪に流れて大師水 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」
締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133



毎年2月は「北方領土返還運動全国強調月間」です

択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方四島は、未だかつて一度も外国の領土になったことのない日本固有の領土です。

「四島(しま)返還 あなたの声こそ 力です」

(平成20年度北方領土に関する標語最優秀作品)

